

まいぞうぶんかざいちょうさ  
**ひたちなか市埋蔵文化財調査センター**



### 《施設の概要》

埋蔵文化財とは、地中に埋もれている人々の住居・墓・生産などの生活のための構築物（遺構）や土器・石器・金属器などの各種の器物・道具等（遺物）のことです。市内の埋蔵文化財を包蔵する土地（遺跡）は、約 300 箇所あまり確認されています。遺跡内に宅地造成などの土地開発事業が行われる場合には、遺跡の記録を残すため事前に発掘調査を実施しています。

ひたちなか市埋蔵文化財調査センターは、これらの開発等に伴う発掘調査によって出土した遺物や記録資料等を収蔵し、埋蔵文化財の調査・研究、整理・保存、公開・普及事業などを行う施設で、平成 5 年 12 月に開館いたしました。

### 《展示資料の概要》

標本陳列室では、市域から出土した資料を中心に、旧石器時代から平安時代までの資料を主に展示し、一般公開しています。展示屋の中央には、<sup>とらづか</sup> 虎塚古墳石室壁画の実物大模型（レプリカ）が据えられ、この周囲を旧石器時代から時代順に巡るように資料を展示しています。大型資料収蔵庫と特別資料収蔵庫も公開しており、これらの展示室の一部を利用して、年に数回の小規模な企画展も開催しています。常設で展示されている主な資料は、下記のとおりです。

- 旧石器時代 武田西<sup>たけだにしはなわ</sup> 塙<sup>いしだか</sup>、武田石高<sup>うしろの</sup>、後野遺跡などから出土した石器群（台形様石器、局部磨製石斧・ナイフ形石器・彫器・削器・搔器・尖頭器・細石刃など）
- 縄文時代 後野遺跡の草創期の「無文土器」と石器群、東石川新堀遺跡の「隆起線文土器」と石器群、<sup>とぼら</sup> 遠原<sup>みたんだい</sup>・三反田<sup>つか</sup> 蜷<sup>だいたぼう</sup> 塚<sup>つか</sup>・大田房貝塚などの土器、土製品（土偶・耳飾・土錘など）、石器（石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石皿など）、石製品（石棒・耳飾など）、骨角器（釣針・ヤスなど）、貝器（腕輪・貝刃など）
- 弥生時代 猪<sup>むじな</sup> 遺跡の「猪Ⅱ式」、北山ノ上遺跡の「十王台式」、茨城町<sup>なごか</sup> 長岡<sup>ひがしなか</sup> 遺跡の「長岡式」、東中根遺跡群の「東中根式」など土器型式の標準資料、笠谷・武田西塙・石高・半分山遺跡などの土器、土製品（紡錘車）、石器（磨製石斧など）、ガラス玉・銅鏃・鉄鏃・貝輪・炭化米
- 古墳時代 虎塚・笠谷・三反田<sup>ほのみや</sup>・銚ノ宮<sup>おおだいら</sup>・大平<sup>みつづか</sup>・三ツ塚<sup>みつづか</sup>・磯崎東古墳群の副葬品（鉄鏃・馬具・銅鏡・銅釧・切子玉など）、大平古墳の「乳飲み児を抱く埴輪」、馬渡埴輪製作遺跡の馬形埴輪、三反田・武田西塙遺跡などの土器、土製品、石器、石製品（勾玉・子持勾玉・石製模造品など）、鉄器（鋤先など）、わらじ状炭化物
- 奈良時代 十五郎穴横穴墓群の副葬品（大刀）と須恵器、原の寺瓦窯跡の瓦（文字瓦など）、後谷津製鉄遺跡の製鉄関連遺物
- 平安時代 武田西塙遺跡のおにぎり状炭化物、墨書土器、施釉陶器など
- 中世～現代 <sup>おおぬまきょうづか</sup> 大沼経塚の経筒、沢田遺跡の墨書石、武田遺跡群出土内耳土鍋、陶磁器、高射砲陣地出土遺物など

### 《利用案内》

- ・所在地：〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根 3499
- ・TEL：029-276-8311 FAX：029-276-3699
- ・開館時間：午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
- ・休館日：月曜日（祝日のときは翌日）、年末年始
- ・入館料：無料
- ・交通案内：① JR 常磐線勝田駅経由ひたちなか海浜鉄道湊線中根駅下車、徒歩約 25 分（勝田駅から車で約 15 分）  
② 東水戸道路ひたちなか IC から車で約 10 分